日野市立病院

ベッドサイドで測定したバイタルサインの値を電子カルテに入力するとき，誤った値が入力されたり，入力自体をうっかり忘れてしまうというインシデントが発生する可能性がある．日野市立病院では，電子カルテ連動のバイタルサイン測定機器システムを導入することにより，誤入力や未入力のリスク軽減に取り組んでいる．導入の経緯や効果について紹介する．

未入力や誤入力,タイムラグのリスクを軽減するバイタルサイン･血糖値測定機器システムを導入

地域の急性期医療を担う病院として看護の質向上が最大の目的

日野市立病院は，バイタルサインの未入力や誤入力，タイムラグのリスクを軽減するために,「HRジョイント」というシステムを導入した.「HRジョイント」は，テルモが開発した，電子カルテ連動のバイタルサイン測定機器システムである．

医療安全専従看護師で副師長の佐藤貴子さんは,「私は毎日,“繁忙であった”というインシデントレポートを見ます．要因として“多重課題”“中断作業”“時間切迫”がありますが，現場が感じる“繁忙”はこの要因にあり，業務改善に取り組んではいても，多様化する医療現場のなかでは思うように進みません．カルテを10件開けば2件はバイタルサインの未入力が生じている現状のなか，対策は教育しかないのかと悩む日々でした．そんななかでテルモのHRジョイントを知り，看護の質向上と現実とのジレンマに陥る看護師の手助けになるのでは，と思いました」と言う．

佐藤さんはHRジョイントの導入について，看護科長の田邉由美子さんに相談した．

「たしかにバイタルサインの電子カルテへの入力は看護師の大切な業務ですが，それに時間を費やして，ベッドサイドで患者さんと向き合う時間が少なくなっては本末転倒だと思いました．HRジョイントの話を聞いたときは，アセスメントやケアに時間を割くことができると感じ，とても魅力的なものに感じました」と田邉さん．また，バイタルサインの未入力や誤入力リスクを軽減することにもメリットを感じたという．

「測定値が自動転送されるので，記録が正確だと感じました．そこで，病棟にも話をしたところ『導入してほしい』という意見がとても多かったので，看護部から病院に導入を提案しました」

そのいちばんの理由は，地域の急性期医療を担う病院として看護の質が求められているということだ，と田邉さんは言う．

「ただ日々の作業が効率化するということだけではなく，患者さんと向き合う時間を大切にして看護の質を向上することが目的なのです」

田邉さんはまず，バイタルサインの測定回数の多い外科病棟で2014年4月に初期導入した．

「初期導入によって問題点を抽出してから他の病棟に導入しようと思いました．外科病棟でもとくに問題となることもなく，他の病棟でもスムーズに運用されて

医療安全専従看護師で副師長の佐藤貴子さん.「病棟看護師の多重課題への対応の1つとして，HRジョイントの導入を検討しました」と言う．

看護科長の田邉由美子さん.「HRジョイントはアセスメントやケアのための時間を確保することができるので，とても魅力的なものに感じました」と言う．

外来看護師の池田君子さん.「糖尿病ワーキングも担当しています.血糖値のタイムラグが改善されたことが大きなメリットです」と言う.

6東病棟看護師の野村由美子さん.「最初は,使い方が難しいといやだなあと思っていましたが,とてもスムーズに使えるので業務が楽になりました」と言う.

6東病棟看護師の酒井有里さん.「ベッドサイドにいる時間が増えて,患者さんの様子がうかがえたり,お話しする時間が増えたことがいちばんうれしいです」と言う.

います」と田邉さんは話す.

血糖値のタイムラグ改善が大きなメリット

外来看護師の池田君子さんは,2013年まで糖尿病患者の多い病棟に勤務していた.

「電子カルテが当院に導入される前は紙に血糖値を記録していたので,安全のために“1人の患者さんに対して1つのファイル”を徹底していました.その記録も受持ち看護師が持ち歩いていたので,他のスタッフが患者さんの血糖値を知りたいときには受持ち看護師を探さなくてはなりませんでした.医師も外来診療前に,前夜の血糖値を確認することに時間を要することもありました.患者さんの情報をタイムリーに電子カルテで共有することは,治療と看護に大切だと感じました」

病棟で低血糖を起こした患者がいた場合も,薬やインスリンの量などがその場でわからないため,アセスメントも遅延してしまっていたという.

「電子カルテになってから受持ち看護師を探すタイムラグは少し改善したのですが,手入力だったので,入力されるまでのタイムラグは改善されませんでした.朝8時の血糖値を,業務が落ち着く10時ころに入力していたこともありました」

池田さんは,HRジョイント導入によってタイムラグの問題が改善されたことのメリットを強く感じている.

「タイムリーに血糖値が電子カルテで確認できるので,チーム医療におけるメリットも大きいと思います.たとえば,医師だけでなく薬剤師や管理栄養士もタイムリーに情報を共有できるので,服薬指導や栄養指導にバイタルサインの情報を活かすことができます.病棟看護師も,アセスメントが予測しやすくなったと思います」

田邉さんも,「病棟では患者さんのケアや処置を優先するので,どうしても看護記録は業務の最後になってしまい,情報共有が遅くなってしまいます.HRジョイントは測定後すぐに電子カルテに血糖値が自動で転送されるので,病院全体の情報共有という意味のメリットが大きい

臨床現場の士気が上がるシステムにしていきたい

副院長　村上円人氏

今回は,電算システム管理室長としてHRジョイントの導入にかかわりました.電子カルテ導入に伴って看護師のパソコン業務が過重になり,患者さんと向き合う時間が減っているという状況もあったので,費用対効果がいいシステムだと思いました.

実は私たちは,インスリン療法の記録システムを富士通と独自に開発していたのですが,テルモのHRジョイントとそのシステムがうまくフュージョンできたことも業務の効率化につながりました.看護師の要望に柔軟に対応して,今後も臨床現場の状況をしっかりくみあげ,よりよいシステムにしていきたいと思います.実感としては,臨床現場の士気が上がる“夢のあるシステム”だと思います.

測定値をアセスメントしてケアにつなげることが大切

看護部長　塩谷知子さん

今回のHRジョイント導入の目的は,バイタルサイン測定後の未入力・誤入力リスクの軽減と業務の効率化です.いまはまだ導入直後のため,どれくらい効率化されたかという評価はこれからの段階ですが,入力時間が短縮していることは確かです.

ただ,1つ懸念していることがあります.それは,“自動入力されることによって看護師が測定値を見ない可能性がある”ということです.バイタルサインを測定し,その情報をアセスメントして,患者さんの看護計画につなげることが大切です.したがって,「測定値を必ず見てアセスメントし,看護ケアにつなげなさい」と指導しています.

6東病棟看護師の池田麻莉さん.「入力時間が減ったので業務が楽になりました．また，入力忘れもなくなったので，再度測定することもなくなりました」と言う．

のです」と言う．

また，未入力や誤入力のリスクが軽減したことも実感している．

「手入力の場合，どうしても入力間違いの可能性が残ります．HRジョイントは血糖測定器を読み取りリーダーにタッチすることで正しい値を送信してくれるので安心です．バイタルサイン測定という1つの手技を全病棟で標準化できることも，医療安全を担保できるのではないかと思っています．実際，患者さんのバーコード認証も同時に行っていることもあり，HRジョイント導入後の誤入力は1件も起こっていません」

池田さんは，今後は病院全体の情報共有の啓発に力を入れていきたいという．

「月1回の糖尿病ワーキングはすべての職種が参加するのですが，まだHRジョイントのタイムリーな情報を使いこなせていない職種もいます．導入したばかりなので仕方のないことですが，今後はより多くのスタッフに浸透することで，チーム医療も向上すると思っています」

◆

日野市立病院では，HRジョイント導入のメリットをより活かすため，今後もさまざまな視点から検証を行い，評価を続けていくという．

なお，HRジョイントを販売するテルモでは，このシステムを在宅医療の場でも活用できるように検討している．また，医療機器の適正使用をはかるため，医療機関の要望に応じてアレンジ可能なT-PAS研修*の提案，実施を行っている．

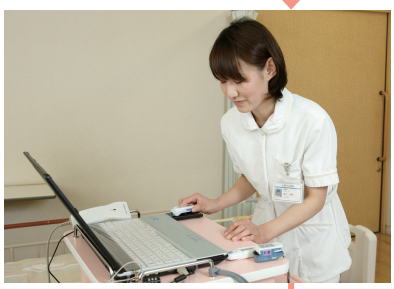
●HRジョイントによるバイタルサインの測定業務

患者の認証

↓

バイタルサインの測定

↓



読み取り

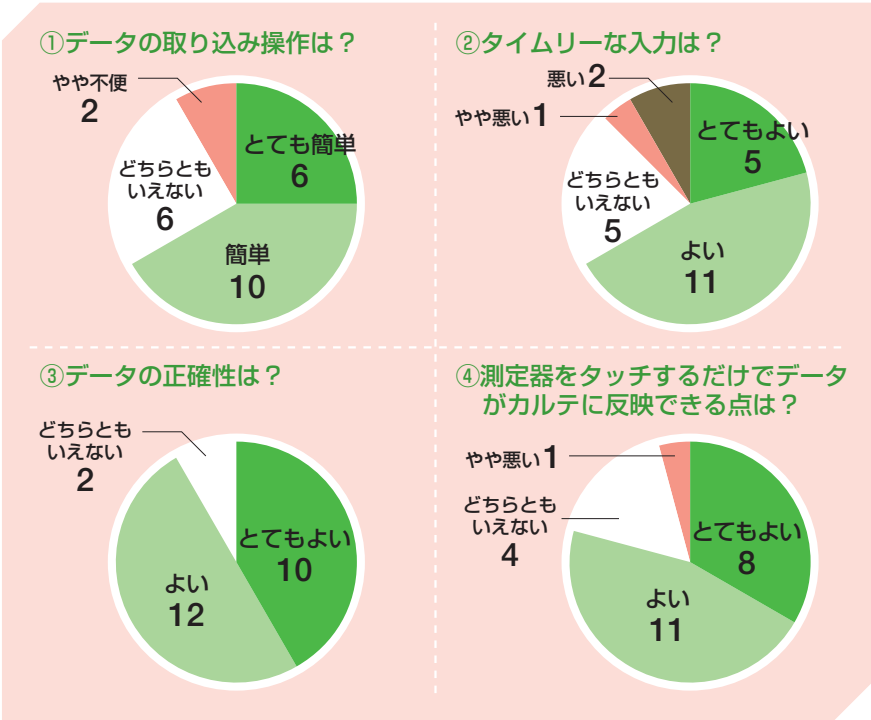
専用の電子体温計，電子血圧計，パルスオキシメーター，血糖測定器を読み取りリーダー（PaSoRi®）にタッチする

↓

電子カルテに反映

瞬時に測定値を自動的に読み取り，電子カルテに送信される．測定した日時もあわせて送信される

●日野市立病院のアンケート結果（n＝24）



日野市立病院
〒191-0062 東京都日野市多摩平4丁目3-1
TEL 042-581-2677
http://hospital.city.hino.tokyo.jp/
日本医療機能評価機構認定病院，単独型臨床研修病院

＊T-PAS研修：シリンジや輸液セットといった汎用医療機器などによる事故を防ぐために，添付文書に記載された注意事項のうち，発生する頻度や危険度が高いものを体験して理解する教育プログラム．詳細については，テルモ株式会社にお問い合わせください．